

川内村における震災後の状況と 復興に向けて

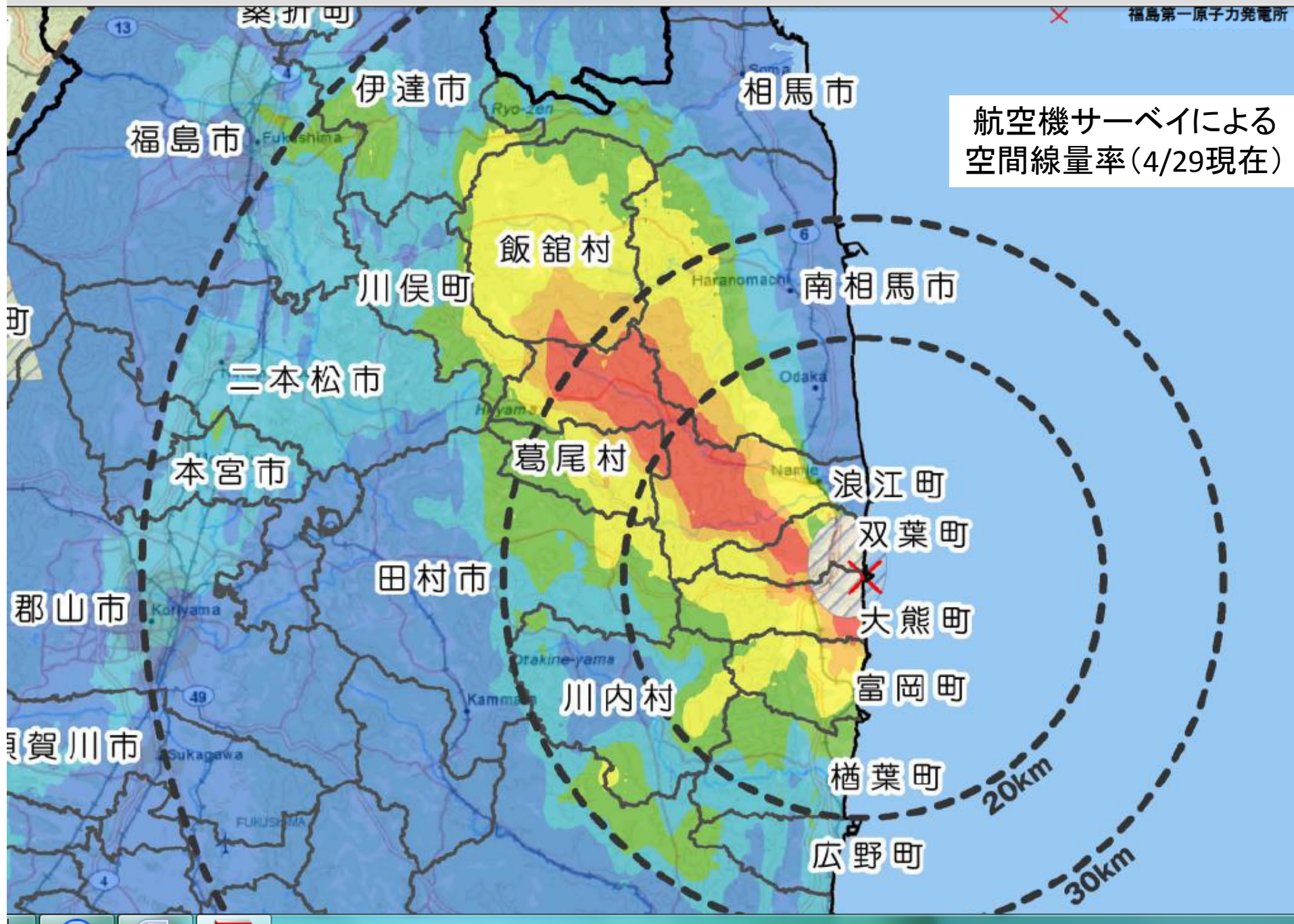


福島県川内村長 遠藤雄幸

東日本大震災から避難まで

【120年余の歴史の中で初めての全村避難】

- 3月11日 14:46 川内村は震度6弱を観測
- 3月12日 富岡町住民が避難約8,000名が本村に避難
双葉警察署、広域消防本部とともに本村に移転
- 3月12日 川内村・富岡町合同災害対策本部設置
- 3月13
 ~15日 福島第1原発 1、3、4号機水素爆
- 3月14日 川内村全域が屋内退避区域に設定
- 3月15日 村民に避難指示
- 3月16日 川内・富岡住民 集団避難（郡山市へ）
- 3月17日 午前0時 川内村・富岡町合同災害対策本部を
郡山市に設置



震災の影響で川内村の状況は

- ◇放射線への不安(低線量被ばくの影響)
- ◇人口減(半減の危機)
 - ・住民の大半が避難している状況
 - ・子育て世代が帰還を躊躇
 - ・避難先で新しい生活や就業へ
- ◇地域コミュニティーが崩壊
 - ・避難先が広範囲にわたり交流が断絶
 - ・地域活動の停止
- ◇農地の荒廃
 - ・離農者の増加
 - ・避難により管理されていない
 - ・作付けの制限
- ◇生活環境の悪化
- ◇地域経済の低迷

帰村に向けた課題①

◇除染

- ①チェルノブイリ原発事故との違い
 - ・農地山林の除染は行わなかった
 - ・肥沃度の低下
 - ・除去した土壌の処分問題
- ②詳細な汚染マップ作成
 - ・汚染度の調査、土壌の分析
 - ・適地適作
- ③除染方法と費用対効果

帰村に向けた課題②

◇雇用の確保

- 製造業の誘致
- 木質バイオマス熱、電気供給事業
- 水耕栽培の実施

◇健康診断の実施

◇食品農作物のモニタリング

◇教育環境の整備

- 保養地での学習、健康管理

◇交通網の整備

消滅市町村

